

MIMIC

2022 年度活動報告

MIMIC のプロジェクト 2 年目は、昨年度に実施した石井海音のリサーチ記録集の制作・刊行と、新たなりサーチ企画を並行して進めた。

まず、本プロジェクトを簡潔に概要しておく。

MIMIC では、リサーチ対象者の制作スタイルや作品を模倣し、実際に制作することで調査を実施する。（本プロジェクトでは、この模倣制作と記録プロセスを MIMIC と呼ぶ。）

石井のリサーチでは、MIMIC メンバーである岡本が石井作品を模倣したが、新たな企画ではゲスト調査者を招待し、それぞれ企画を進めてきた。

ただし、クニモチのリサーチは諸事情により進行が困難となったため、本稿では村上のリサーチについて主に報告する。

また、石井海音の記録集は、本文は昨年に完成しており、表紙の制作など正式な配布に向けた準備が主。表紙は、石井の絵画作品の関心のひとつである「線とイメージの関係性」から拡げ、MIMIC ロゴをあしらった紙に、石井のドローイングをシルクスクリーンで手刷りした。

さて、村上美樹によるリサーチは、村上が開催している「ソックモンキー」または「新しい道具」という縫い物の制作ワークショップを軸に進行中である。

村上は、1994 年秋田県生まれ、本学大学院修士課程彫刻専攻を修了している。現在は京都を拠点に活動する。立体造形やインスタレーション、旅、エッセイ、縫い物など、自然体で美術に関わる村上に制作を行ってもらうことで、村上の作家性や作品をよく知ることを企図する。

とりわけ今回は、不特定多数または任意の参加者とのワークショップを複数回開催し、その記録を行う。

本年度に行ったワークショップは 2 回で、内容は以下。

①「ソックモンキーをつくる」ワークショップ [1]

5 月 28 日（土）、29 日（日）（場所：MtK Con-temporary Art 2 階）

内容：あらかじめ募集した複数の参加者と一緒に、ソックモンキーの「耳」や「腕」「尻尾」「口」を、好きな位置に付けることで、自分だけのかたちを見つけるワークショップ。

②「新しい道具をつくる」ワークショップ

8 月 22 日（月）（場所：京都市立芸術大学 彫刻棟 合同研究室）

内容：本学美術学科彫刻専攻教授の中原浩大先生と一緒に、村上のぬいぐるみ作品「新しい道具」の制作を行う。

今後は、参加者を変えながらも何度かワークショップを行い、インタビューをとる予定である。

岡本 秀

[1] 『ソックモンキーを作る』募集ページ（<https://workshop001mtk.jimdofree.com/>、最終アクセス：2022 1130）



「石井海音の MIMIC」記録集表紙の制作風景



村上美樹の縫い物作品「新しい道具」をつくる中原先生